

TV 報道検証【報道特集】 報告書

テレビ局：TBS	番組名：報道特集	放送日：2019年8月24日
出演者：金平茂紀、日下部正樹、膳場貴子、宇内梨沙 西村匡史（特集償えない罪を取材）		
検証テーマ：日韓関係、オープニング、日米貿易交渉、G7サミットで共同宣言採択せずの見通し 米中貿易摩擦、眞子さまが高校生による手話のスピーチコンテストに出席 【特集】カジノ誘致に揺れる横浜		
報道トピック一覧		
<ul style="list-style-type: none"> ・日韓関係 ・オープニング ・日米貿易交渉 ・G7サミットで共同宣言採択せずの見通し ・茨城県で高齢夫婦が襲撃される ・岐阜県北方町で親子三人が襲撃される ・長野県佐久市で遺体が発見される ・米中貿易摩擦 ・眞子さまが高校生の手話スピーチコンテストに出席 ・栃木県鹿沼市でひき逃げ事件 ・神奈川県座間市で住宅全焼の火事 ・【特集】カジノ誘致に揺れる横浜 ・【特集】償えない罪～妻子六人殺害 ・スポーツ報道 		
放送法第4条の見地からの検討・検証および該当トピックの報道内容要旨		
<ul style="list-style-type: none"> ・日韓関係：結論→特に問題なし <p>日韓関係について以下に朱記したVTRが取り上げられた。</p> <p>岩屋毅防衛相「落下したのは我が国の排他的経済水域の外だと推定されます。」</p> <p>ナレ「防衛省は、今朝、北朝鮮が弾道ミサイル2発を発射したと発表しました。午前6時44分頃と、午前7時1分頃、北朝鮮の東岸から日本海に向けて発射され飛行距離はそれぞれ、およそ400キロと350キロと分析しています、政府は国連安保理決議違反だとして北京の大使館ルートを通じて北朝鮮側に抗議をしました、韓国政府が軍事機密を共有するための協定GSOMIAの履きを昨日日本側に通告して翌日のミサイル発射。」</p> <p>"ナレ「岩屋大臣は情報収集などに影響はなかったとしながらも、このタイミングでの発射に」</p> <p>岩屋防衛相「北朝鮮もですね、地域の情勢をしっかりと見ているでしょうから、まあ間隙をついたということではないかなあ、と。」"</p> <p>ナレ「北朝鮮側にはGSOMIAを巡って揺れる日米韓三カ国の連携をさらに揺さぶる狙いがあるものと見られます。」</p> <p>ポンペオ国務長官「韓国の決定に失望している。我々は日韓両国が対話を続けるよう要請する。」</p> <p>ナレ「韓国のGSOMIA破棄についてポンペオ国務長官は失望という言葉を使い批判していました。」</p> <p>ナレ「今日付の韓国の保守系メディア、朝鮮日報は『こうしたアメリカ側の反応はムン・ジェイン政権を信じる</p>		

ことができないという明らかな立場表明だとして **GSOMIA** の破棄が韓米同盟に深刻な不信を招いた』と指摘。これに対し、革新系のハンギョレ新聞は『アメリカの態度には我々こそ失望させられた。今からでも日本の誤った行動を批判すべきだ』と避難するなど韓国内でも論調が分かれています。」

トランプ大統領「安倍首相と会うのを楽しみんしている、彼は紳士で良い友人だ。ムン大統領も良い友人だ、韓国がどうなるか見てみよう。」

ナレ「トランプ大統領は **G7** への出発前にこう語りましたが、具体的な言及はしませんでした。」

グテーレス（国連事務総長）「日韓の間に存在するいかなる困難も両国で解決できるよう願うしかありません。」

ナレ「一方、国連のグテーレス事務総長は日韓関係悪化の懸念に対し二国間の関係に介入はしないとしながらも歩み寄りを促すなど国際社会がその行方を見守っています。」

ナレ「こうした中、今月末に日本での開催が予定されていた陸上自衛隊と韓国陸軍の幹部候補生同士の交流が韓国側からの申し出で中止になったことがわかりました。レーダー照射問題など悪化する日韓関係を受けての対応と見られますが、きのうの **GSOMIA** 破棄の通告もあり防衛省幹部からは日韓の防衛交流はますます難しくなっていく、と安全保障への影響を懸念する声も上がっています。」

このトピックに当てられた時間は 208 秒で放送法上は特に問題は見られなかった。

・オープニング：結論→特に問題なし

番組の冒頭で金平キャスターが「ええ、白紙にするとは辞書を引きますとまっさらにする、一からやり直す、という意味だとありますが、2年前の選挙でカジノ誘致は白紙と述べた林横浜市長の辞書にはやり過ぎ、争点にならないように曖昧化するとはまさか書かれてはいないとは思いますが、横浜市のカジノ誘致、特集でお伝えします。」とコメントしていた。このシーンに当てられた時間は 23 秒だった。

・日米貿易交渉：結論→特に問題なし

スタジオでの膳場キャスターの「ではニュースです。日米の新たな貿易交渉について茂木経済再生担当大臣とアメリカのライトハイザー通商代表が大枠で合意しました。」や、日下部キャスターの「首脳会談でも合意できれば、9月中の妥結を表明したい考えです。」というコメントを受けて以下に朱記した **VTR** が取り上げられていた。ナレ「大詰めを迎えていた日米の閣僚級協議は予定を一日延長して 23 日も行われ最大の懸案である牛肉や乳製品、自動車などの関税引き下げや輸入枠などについて話し合われました。」

茂木経済再生担当大臣「大きな進展を見ることができました。ライトハイザー通商代表との間で方向性を共有をいたしました。」

ナレ「交渉関係者によりますと 23 日までの協議で茂木大臣とライトハイザー代表が牛肉や豚肉の関税引き下げを **TPP** の水準で抑えるなど重要品目で議論が折り合い大枠で合意したということです。日米は **G7** サミットに合わせて予定されている首脳会談で今回の閣僚級での結果を確認し、首脳間でも合意ができれば 9 月中の妥結を表明したい考えです。」

このトピックに当てられた時間は 74 秒で放送法上は特に問題は見られなかった。

・**G7** サミットで共同宣言採択せずの見通し：結論→特に問題なし

スタジオでの日下部キャスターの「その **G7** サミットは今日、フランスで開幕されますが史上初めて首脳宣言が採択されない見通しとなっています。果たして成果は出せるのでしょうか。」というコメントを導入に以下に朱記した **VTR** が取り上げられていた。

ナレ「フランス南西部の町、ビアリッツ、大西洋を臨むサーフスポットとして有名なリゾート地は G7 開幕を控え警察官およそ 13000 人が警備にあたっています。首脳らによる議論は現地 24 日の夜から行われますが、今回議長国を務めるフランスは各国が一致しての共同文書、いわゆる首脳宣言を採択しない方針です、採択されなければ 1975 年にフランスで始まったサミットの歴史上初めてですが、その訳はやはりこの人にあります。」

トランプ大統領「大変生産的なサミットになると思うし、首脳の大多数は私の友人だ。100%とは言えないが、」
ナレ「フランスの外交筋はイラン情勢や地球温暖化などでトランプ大統領と他のリーダーとの意見の隔たりが大きく一致点が見いだせないからだとしています。去年、カナダでの G7 で鉄鋼アルミ関税で批判をされたトランプ大統領が首脳宣言採択直後に承認を取り消したことが議長のマクロン大統領にとってトラウマになっているとも言われています。」

"フランスの記者「トランプ大統領は合意しないだろうし、合意したとしても守らない。『首脳宣言』の信用がなくなったんだよ。」

デンマークの記者「先進国同士で意見が合わなくなったことの表れです。事態をこれ以上悪くさせないことだけが今回の G7 の目標です。」 "

"ナレ「西側諸国が立場の違いを乗り越えて結束を打ち出してきた姿は消えてしまったのでしょうか。」

大八木友之（報告）「トランプ大統領という荒波にうまく乗ることができるのでしょうか G7 の伝統が崩れようとする中で各国のリーダーたちの対応が注目されます。」 "

このトピックに当てられた時間は 125 秒で放送法上は特に問題は見られなかった。

・米中貿易摩擦：結論→特に問題なし

日下部キャスターの「アメリカのトランプ大統領が中国に対する制裁関税をさらに強化すると発表しました。両国による報復の応酬に歯止めがかかりません。」というコメントを導入に以下に朱記した VTR が取り上げられた。

"トランプ大統領「アメリカ経済は好調だ。中国との争いはあるが我々が勝つことになる。」

ナレ「フランスに向けて出発する直前にこう述べたトランプ大統領は 23 日、現在 2500 億ドル分の中国製品に対し上乗せしている、25%の関税を 10 月 1 日から 30%に引き上げる他、来月 1 日に発動を予定する第四段の制裁関税についても 10%から 15%に引き上げると発表しました。」 "

ナレ「これに先立って中国は同じ日、米による第四段の制裁関税への報復としてアメリカからの輸入品 750 億ドル分に最大 10%の追加関税を貸すと発表していました。」

ナレ「米による中国への制裁関税の強化はこれに対する報復措置で、トランプ氏はアメリカ企業に対し中国からの事業撤退も要求しました。これを受けて 23 日のダウ平均株価の終値は今年四番目の大きな下げ幅となりました。」

このトピックに当てられた時間は 81 秒で放送法上は特に問題は見られなかった。

・眞子さまが高校生の手話スピーチコンテストに出席：

膳場キャスターの「秋篠宮家の長女、眞子さまが高校生による手話のスピーチコンテストに出席されました。」というコメントを導入に以下に朱記した VTR が取り上げられた。

眞子さま（手話）「未来へ向かって花の蕾がゆっくりと開くようにという意味が込められた、令和という手話表現が確定したと伺っております。」

ナレ「眞子さまはおよそ 5 分半に渡る挨拶で手話も交え、豊かな手話での表現を楽しみにしております、と述べ

られました。その後眞子さまは高校生の熱のこもった手話スピーチを見守りにこやかに拍手を送られました。」

このトピックに当てられた時間は 47 秒で放送法上は特に問題は見られなかった。

・【特集】 カジノ誘致に揺れる横浜：結論→放送法上問題あり

膳場キャスターの「特集です。横浜市の林市長がおととい、カジノを含む IR、統合型リゾート施設の誘致への方針を表明しました。」と、金平キャスターの「えー2年前の市長選では、誘致白紙としていた林市長に、市民からは反発の声も上がっています。」というスタジオでのコメントを受けて、以下に朱記した特集の VTR が取り上げられていた。

金平「エー横浜市がカジノ誘致する方針を決めたことにたいし、反対する市民が今、市役所前に集まって抗議活動を行っています。」

集会参加者の男性「横浜にカジノはいらない。山下ふ頭は市民の憩いの場に市民から反対の声が上がる中、」

横浜市林文子市長「IR 実現に向けて本格的な検討準備を進めることにいたしました 」

ナレ「横浜市の林文子市長は、横浜港の山下ふ頭にカジノを含む IR、統合型リゾート施設を誘致することを表明した。」

林市長「魅力ある横浜、都市のさらなる飛躍につなげてまいります。」

林市長「納得いくかということに対し、これは皆さんがお決めになることだと思いますけども」

ナレ「横浜のこれまでのイメージを変えてしまいますかもしれないその決断に波紋が広がっている。」

ナレ「おととい、横浜市の林文子市長が、カジノを含む IR 統合型リゾート施設を誘致することを表明した。横浜市は、IR ができることで新たに最大で年間 1200 億円の税収を見込んでいる。」

林文子市長「えー決断の背景にあるのは、横浜の将来への強い危機感です。」

林文子市長「福祉・医療とか、そちらにもものすごくお金がかかっているのに、この税収がこのままでは、ですね、そちらの方に手当をすることができない。」

ナレ「少子高齢化が進む中、安定した財源を確保するために、IR 誘致が必要だという。しかし、おととしの市長選の際には、」

おじさん「ばんざーい。ばんざーい」

林文子市長（2017）「選挙戦の前からですね、私は現在白紙でございますと、申し上げているんですけども、大変賛成する方もいらっしゃるし、やはり、今現在、多くの市民の方がご不安だと思います。」

ナレ「林市長は、前回の市長選で、ギャンブル依存症や、治安悪化を問題視し、誘致は白紙と主張して当選した。この点を会見で聞いた。」

金平「えー有権者はその白紙という判断に、自分の民意をゆだねてですね、林市長に票を投じた方もいらっしゃると思います。それにたいして今までのその説明でですね、その方々は納得がいくというようにお考えですか？」

林市長「えーと、納得がいくかということに対してこの、皆さまがお決めになることだと思いますけども、私としては納得していただくように最善の努力をさせていただきます。」

金平「2年前とですね、状況がですね、何が変わって、判断が覆ったか、具体的な説明が無かったように思います。」

林市長「あの一すいません、あのちょっとお言葉を返すようですけどね、白紙にしたということは、まあ、一切やりませんということではないんですよ。大変に残念に思うとか、裏切られたと思う方がいらっしゃるかもしれませんが、それはわたくし自身が、きちっとこれからご説明をして、申し上げていきたいと考えます。」

ナレ「林市長は、今後しない全ての区で住民説明会を開き、自ら丁寧に説明すると述べた。一部の市民が求めて

いる住民投票については」

林市長「今の段階ではいつ住民投票をやるということは、考えていません。」

金平「これは、今の時点でいいんですか？」

林市長「いいと思います。IR 整備法では住民の意見を反映させるためには、こういう方法を取りなさいと規定がされています。その規定にのっとって、するわけでございますから、私は今の時点では、やらせていただかないと行ってだけです。」

ナレ「1 時間半ほど続いた会見が終わり、会場を後にした。すると、」

ナレ「会見の資料が、宙を舞う様子がカメラにとらえられた。」

日下部「えー山下ふ頭の突端にまで来ました。えーここにはまだ船が横付けされて、今ちょうど積み荷作業が行われているところです。実際このふ頭、歩いてみますとですね、相当広いエリアだなということが実感できます。」

ナレ「カジノを含む IR の建設が予定されているのは、横浜港の山下ふ頭。山下公園に隣接し、近くには中華街もある。市民はどう見ているのか。」

女性 A「ルールとか、ちゃんと決めてたら、問題ないかなとは思いますがね。本当にみんな守れるような感じだったら、まあいいのかなとおもいますけど」

男性 B「風紀が乱れるのがちょっと、心配ですよ、やっぱり。」

金平「税収とか増えるのでは？」

男性 C「いや、増えるでしょうけど、やっぱり静かな暮らしがしたいので」

ナレ「IR は、カジノだけでなく、ホテルやショッピングセンター、数千人規模の国際会議場などからなる複合施設だ。」

ナレ「誘致を求めてきた地元の経済界は、喜びの声を上げた。」

横浜商工会議所 川本守彦会頭「市長の、IR 横浜誘致表明に対し、大変喜ばしく、心より歓迎を致す次第であります。」

ナレ「山下ふ頭に近い、元町商店街の理事長も、IR の集客力に期待を寄せている一人だ。横浜を代表するこの商店街も、インターネットを通じた買い物の普及などのあおりで、客足は減ってしまったという。」

川本守彦会頭「三年ぐらい前から、ちょっと様子が変わってきて、空き店舗も数店舗できるようになってきたということはかなりの変化。これはもう、物販業全体がやっぱり相当悪いんじゃないかなということも、思っています。」

ナレ「横浜商工会議所の試算によると、経済効果は、6700 億円。雇用の創出は、7 万 9000 人に及ぶという」

川本守彦会頭「ものすごく人が集客する施設が、この元町商店街の近くにできるということは、ものすごく喜ばしいことだと思っています。あの絶対やるべきです。」

ナレ「IR を巡っては、横浜のほかに、大阪、和歌山、長崎がすでに誘致を表明。東京や千葉なども検討を進めている。しかし IR は、全国で最大 3 か所とされているため、3 枠を争う誘致競争が一層はげしくなりそうだ。」

ナレ「そうした中、横浜での IR 参入に向けた海外事業者の競争が、始まっている。」

メルコリゾート&エンターテインメント ローレンス・ホーCEO（吹替）「メルコが大きな開発をしたいと思っている場所です。ですからできるだけ早く、地域コミュニティの一因になりたいのです。」

ナレ「横浜の地元サッカーチーム、横浜 F・マリノスが行ったパートナーシップ契約の会見。あらたなスポンサーとして紹介されたのが、カジノを含む IR、統合型リゾート施設を運営する香港のメルコリゾート&エンターテインメントだ。」

膳場「失礼します。よろしくお願いたします。」

ナレ「メルコ社は、2年前から東京と大阪にオフィスを開設。横浜の商店街とも積極的に交流を深めている。」

膳場「これは、アッ、」

女性社員「これをご覧になっていただくと、浮き出ているんですが・・・」

膳場「すごい、3Dってことで？」

女性社員「はい。これを押していただくと、」

膳場「ああープロジェクションマッピングみたいなものが、始まっとる。」

ナレ「オフィスに並ぶのは、世界各地に建設されたIRの模型。マカオにある最新ホテルの設計は、新国立競技場の当初案の建築家として知られるザハ・アギド氏だ。さらに日本向けに独自に取り組んでいるのが、」

女性社員「指紋の登録をお願いします。カメラがこちらにございますので、こちらをご覧になっていただいて、こちらで認証が発行されます。」

膳場「ふーん。顔や指紋が登録されて、で、あの、身分証は、公的なものを使うということですよ。」

ナレ「ベルコ社が開発するカジノスペースへの入場管理システム。実際どのようなシステムが日本国内で運用されるかは、政府が現在検討している段階だ。しかしメルコ社は、先駆けて開発に取り組み、政府とも緊密に協力したいと考えているという。システムには、家族が入場を制限できるプログラムも、取り入れられている。」

ナレ「横浜市の誘致表明を受け、アメリカの大規模事業者、ラスベガス・サンズは、大阪での入札参加を見送り、東京・横浜に焦点を当てるという方針を表明した。競争の激化が予想される中、ベルコ社のローレンス CEO が単独インタビューに応じ、横浜への強い意欲をこう語った。」

ローレンス CEO (吹替)「とてもわくわくしています。この数年間、横浜に多くの時間をかけてきました。美しい都市です、将来世界の観光客が日本に来た時に、行き先の一つではなく、最初に訪れる都市となるようにしたいのです。またIRを作るとき、横浜のような大きな都市では、少なくとも100億ドル費やすことになるでしょう。その100億ドルは初期投資にすぎません。他の場所と同じように私たちは投資をし続けます。」

膳場「横浜市民から治安が悪くなることへの不安の声が挙がっています。これに対しては、企業としては、どういった対策を考えていますか？」

ローレンス CEO (吹替)「私たちメルコは、カジノというよりもエンターテインメントの企業だと考えています。マカオ・マニラ・キプロスどこであろうと、一般的にIR全体に占めるカジノの面積はとても小さい。日本では3%以下です。最終的に人々の不安を解決するのは、コミュニケーションです。私たちは引き続き政府や、地域の組織、商工会議所と協力して、人々の不安を解消したいと心から考えています。」

ナレ「横浜市の誘致表明を受け、先行する自治体は、」

大石崇 (和歌山県IR推進室課長補佐)「関東圏の大都市圏が手を挙げられたということですから、まあ非常に有力な候補地であることは間違いないと思いますんで、」

ナレ「和歌山県は、すでに観光施設として利用されている和歌山マリーナシティへの誘致を目指している。その一角の駐車場を中心とした広大な土地だ。関西国際空港から近く、大阪、京都、神戸などへの観光拠点としても便利だという。和歌山県が力を入れているのが、ギャンブル依存症対策だ。法律では、マイナンバーカードを活用した入場回数の制限や、クレジットカードの利用の規制などを定めている。」

ナレ「しかし和歌山県は、より厳しい独自の規制を検討している。」

大石氏「和歌山県としては、カジノ施設内でIRカードっていうものをぜひとも作って、カードにはそれぞれの方に応じて、上限の金額なども設定できるようにすれば、一発で破産をしてしまっ、持ってきたお金を全部使ってしまうということもないですね。」

大石氏「まあ、一定程度そういったことに対する歯止め、の効果も非常に大きいというふうに考えてまして、」

ナレ「担当者は、住民の不安を解消し、理解を得ることが、誘致成功のカギだと、話す。」

大石課長補佐「県民、市民の方への理解促進と言いますと、シンポジウムの開催であったり、様々な場所での説明会を 50 回、60 回と積み重ねてきてますので、そういう意味では、これから手を挙げてこられる自治体さんとは、その取り組みの深さと言いますかね、そういったものについては、我々の方が一歩も 2 歩も先を言っているのではないかと思います。」

ナレ「波紋を広げる横浜へのカジノ誘致。予定地である山下ふ頭の土地の 90%は、横浜市が所有しているが、ここを長年仕事場としてきた港湾事業者は、激しく反発している。」

藤木幸夫（横浜港湾協会会長）「横浜市が、こうもしろ、ああもしろと言っても、私聞きません。ここは俺たちのところだよ。なぜ立ち止まる。役所が立ち退けよ。」

ナレ「横浜港湾協会の藤木幸夫会長。89 歳。ハマのドンと呼ばれ、与党の有力政治家とも太いパイプを持つが、カジノを解禁した政府には、こう憤る。」

藤木氏「たいたいもう、動機が動機じゃないですか。まあもうトランプに脅されてやるんだから。そんだけの事じゃないですか。ね。みそぎを断ればいいんですよ。」

ナレ「港湾業者らは、カジノ抜きの IR という、独自の再開発案を提唱してきた。藤木会長は、世界有数の貿易港を支えてきた港湾労働者たちの思いをこう語る。」

藤木会長「港の現場の全体の事言ってるわけですけども、やはりね食うものも食わずに、食べたいもの食べないよね。言いたいことも言ってません。来たいものも着てません。そういうね港湾労働者がね、みんな守ってきた仕事場なんですね。そのことを考えるとね、あそこで、ワインカリキュールか、何が出るか知らないけど、飲みながらゴロゴロ交わして、こうでああするなんて、もうね、考えられない。」

ナレ「一方、主婦の立場から反対の声を上げている人たちもいる。」

"日下部「鈴木さんですか？」

鈴木「はい、こんにちは」

ナレ「横浜市に住む鈴木佑子さん。小学 3 年生の双子の娘など、4 人の子どもがいる。2 年前の市長選の時から、主婦仲間とともに、横浜にカジノは必要かを問う街頭でのアンケートを行っている。」

鈴木さん「カジノを作るっていうので、莫大な税金がそこにかけられるっていうこと、あと治安の悪化、ですね。こうやって普通に公園に遊びにきたりとか、子どもがわーって走っていける場所がなくなるっていうことは、もうとても残念というか、」

日下部「市長は、市長選にあたってですね、ちょっと方針を変えましたよ。」

鈴木さん「そこで、争点にしてほしいっていうので、カジノは反対の声を上げたりとかしてる、してたんですけど、まあ争点にならないっていうか、争点隠しっていうか、白紙でごまかし続けて、それで再選されたので、ちょっとずるいなと。」

ナレ「この日、鈴木さんが山下公園まできたのは、林市長に抗議文を渡すためだった。」

日下部「えー記者会見終わったんですけども、こうやってですね、市役所の中に、カジノに反対する市民が集まって、市長に直接会いたいと訴えているところです。」

"市民「早くシロー」

職員「今秘書の方が市長に聞きに行ったところ、市長の返事は、会わないといったそうです」

市民「えー」「理由言いなさいよ。理由は」「市長は何で会えないとっているわけ？」

ナレ「市長室前の押し問答は、2 時間近く続いたが、市長は鈴木さんたちの前に姿を現すことは無かった。」

鈴木さん「私たちは、市民の声を聞いてもらいたいと思って活動をしてきたんですけども、そうですね、それが

全く届いていないんだな、と。思いましたね。」

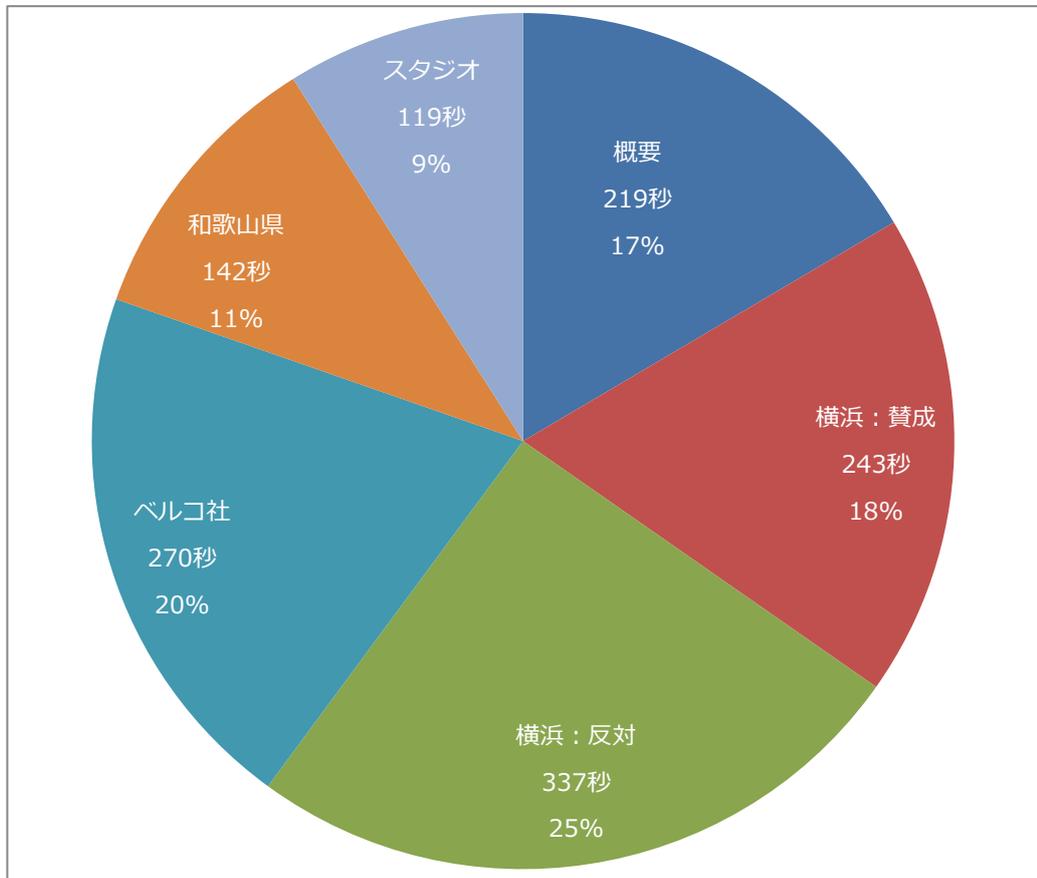
VTR を受けてスタジオでは以下に朱記したやり取りが繰り返し広げられた。

膳場「この IR という、大きな賭場ができるんじゃないかとイメージがある方多いじゃないかなと思いますが、日本で IR を展開する際には、法令によって、カジノの占める面積は全体の 3% までと決められています。今はそんなカジノに対する不安が大きい状態なんだと思いますが、それ以外の施設、97% にあたるさまざまなエンターテインメントなどを含めた IR の全体像はどういうものなのか。それについても、横浜市がきちんと説明をして、丁寧に議論を進めていく必要があるなと感じました。」

日下部「えー私は、お話を伺ったね、横浜港湾協会の藤木会長ですけども、横浜選出の菅官房長官や、林市長もね、選挙も応援してきたよ。というひとなんですけれども、何度も顔に泥を塗られたってね、言っていましたね。その藤木会長も最初はカジノに賛成していたんですけども、その後、専門家などを招いて勉強会を開く中で、ギャンブル依存症の恐ろしさ。これを知ったっていうんですね。藤木さんはこうも言っていました。市民はまだです、カジノというものを知らない。ギャンブルというものは、目に見えないところで、大勢の人が泣いているんだ。この言葉を知人である林市長や、菅官房長官はどう聞くんですかね。」

金平「僕は林市長の記者会見に参加したんですけどね、これほど、その将来の横浜市のありようを、大きく変えるような政策変更っていうのは、やっぱりその市民の声が十分に反映されていないとね、やっぱり駄目だと思うんですね。やっぱり世論調査でも、カジノ誘致するのは反対だという人が多数派ですから、決めるのは、市長でなくて市民ですよ。これが民主主義の原則なんで、今の段階で住民投票もしないってのは、これはおかしいことですよ。あの一市民はここでしっかりとですね、考えて行動することが僕は大事なな一というように実感として思いましたですね。」

この特集に当てられた時間は 1330 秒で、時間配分は以下の通りであった。



横浜の IR について賛成の意見を取り上げた時間に対して明らかに反対の意見を取り上げた時間のほうが大きな割合が当てられていた。また、スタジオでの論調も日下部キャスターや金平キャスターの発言は反対意見であったため、反対に偏った論調となっていた。

そのため、放送法第四条一項二号の「政治的に公平であること」という点では問題のあるものだったと言える。また、スタジオで膳場キャスターも「日本で IR を展開するには、法令によって、カジノの占める面積は全体の 3% までと決められています。今はそんなカジノに対する不安が大きい状態なんだと思いますが、それ以外の施設、97% にあたるさまざまなエンターテインメントなどを含めた IR の全体像はどういうものなのか。それについても、横浜市がきちんと説明をして、丁寧に議論を進めていく必要があるなど感じました」とコメントしていたが、今回の特集でも 97% にあたるエンターテインメントについては触れられていなかった。こうした取り上げ方は放送法第四条一項四号「意見が対立している問題については、できるだけ多くの角度から論点を明らかにすること」という点からは不十分といえるものであった。

最高裁判例の見地からの「印象操作」に関する所見および該当トピックの報道内容要旨

特に問題なし

検証者所感

・日韓関係

VTR 中では韓国の保守系新聞と革新系新聞の論調が取り上げられていたが、韓国の保守系や革新系はそれぞれどのような基本スタンスをとっているのだろうか。

検証者にはよくわからなかったが、当たり前のように「保守」、「革新」と言われてピンとくる視聴者がどの程度いるのかは正直気になるところである。

・オープニング

オープニングで金平キャスターが「ええ、白紙にするとは辞書を引きますとまっさらにする、一からやり直す、という意味だとありますが、2 年前の選挙でカジノ誘致は白紙と述べた林横浜市長の辞書にはやり過ぎず、争点にならないように曖昧化するとはまさか書かれてはいないとは思いますが、横浜市のカジノ誘致、特集でお伝えします。」とコメントしていたが、「まっさらにする」、「一からやり直す」というのはその時点でなんらかの結論を出すということではないだろう。むしろ結論を保留するということであって、どこかの段階で結論を改めて出す、というのは当然のことである。

白紙にする、だとかゼロベースで考え直す、というのはその結果として結論が変わる場合もあれば、考え直した結果やはり白紙に戻す前と同じ結論に至るということも十分にある。

「白紙にする」という言葉を金平キャスターが「取りやめる」と同義だと捉えていたとすれば、それはあまりにも自らの願望を投影しすぎていたと言えるだろう。

・【特集】 カジノ誘致に揺れる横浜

そもそも IR 法で誘致できる箇所が全国で 3 箇所と定められていることや、カジノの面積などが規制されていることなども問題であると考えます。特に始める時点で全国で 3 箇所しか誘致できないということになると、誘致が許された地域以外では新規参入ができないために、IR の誘致を巡っての競争は働く一方で誘致後に競争が働か

ないという点で問題と言えるのではないだろうか。また、誘致後に競争が働かないとなると、競争が働く状況であれば淘汰されているような IR でも惰性で続いてしまうという恐れがある。それは市場による選択が働かないということであり、市場による選択が働かないからこそ、開始以前で事前の賛否をめぐりここまで論争になるのではないだろうか。

本来、競争や淘汰が働くようなマーケットデザインになっていれば、敢えて民主政治の領域の問題にする必要のないものが、マーケットデザインの問題で民主政治の領域に持ち込まれているとも言える問題であるが、そうした点での指摘はなかった。

また、日下部キャスターは「藤木さんはこうも言ってました。市民はまだですね、カジノというものを知らない。ギャンブルというものは、目に見えないところで、大勢の人が泣いているんだと。この言葉を知人である林市長や、菅官房長官はどう聞くんですかね。」と藤木さんの言葉を肯定的に紹介していたが、「目に見えないところで、大勢の人が泣いている」からと言って、それを事前に防ぐために行政が先回りして規制する、ということが許されるのであれば一事が万事、事前規制がまかり通ってしまう、という恐れがある。

そもそも自由な市民というのを前提に置くのであれば、たとえ自由にしていたら「目に見えないところで、大勢の人が泣きかねない」と言っても、それを行政が先回りして規制するというのは極力控えなければならないだろう。